

科目名	プロフェッショナルダンス 1							年度	2026
英語科目名	Professional Dance 1							学期	通年
学科・学年	ダンスパフォーマンス科 1年次	必/選	必	時間数	120	単位数	4	種別※	実技
担当教員	本田真弓		教員の実務経験	有	実務経験の職種		ジャズダンサー		
【科目の目的】 実技を中心としたリハーサルおよびコミュニケーションアップの為にディスカッション、照明知識や舞台用語の知識などの習得を行います。振り入れから構成、場当りから本番まで作品作りを実践的に学びます。									
【科目の概要】 この科目では修了公演、イベント出演に伴うリハーサル、場当り出演、本番などを通してダンスの技術はもちろんコンディション作り、スケジューリングやコミュニケーション力などを学びます。									
【到達目標】 A. 専門分野の範囲を把握し、学際的な学びの意義を知る。 B. 専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを現場で体験し知見を得る。 C. 学んだことを学校の実習や将来の現場で生かす複合的な視座を体得する。									
【授業の注意点】 前回レッスンの動き・ステップ・振り付けを自主練習して実習に臨む事。授業時数の4分3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう				レベル1 要努力		
到達目標 A	専門分野の範囲を把握し、学際的な学びの意義を知る		専門分野の範囲を把握している				到達目標Aについてさらなる努力が必要		
到達目標 B	専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを現場で体験し知見を得る		専門分野の範囲外の色々なジャンルの音楽実技または音楽スタッフワークを説明できる				到達目標Bについてさらなる努力が必要		
到達目標 C	学んだことを学校の実習や将来の現場で生かす複合的な視座を体得する		学んだことを学校の実習で生かす複合的な視座を体得する				到達目標Cについてさらなる努力が必要		
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 適時レジュメ・資料を配布する									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 試験・課題 30% 試験と課題を総合的に評価する レポート 40% 授業内容の理解度を確認するために実施する 成果発表 20% 授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する 平常点 10% 積極的な授業参加度、授業態度によって評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		プロフェッショナルダンス 1			年度	2026
英語表記		Professional Dance 1			学期	通年
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	第一課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1 プロダンサーとは	プロダンサーの意義がわかる	3	
			2 課題発表	第一課題の意義がわかる		
			3 課題理解	課題の内容を理解できる		
2	第一課題 実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
3	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
4	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
5	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
6	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
7	まとめ	応用方法を学ぶ	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3 課題発表	第一課題をまとめ、発表する		
8	第二課題 課題発表 概要説明	課題の趣旨を理解	1 第一課題の振り返り	第一課題について振り返りができる	3	
			2 課題発表	第二課題の意義がわかる		
			3 課題理解	課題の内容を理解できる		
9	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
10	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
11	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
12	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
13	実践	現場体験	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 課題の構造化	課題を分解し、構造化する		
			3 課題練習	構造化した課題について練習を行う		
14	まとめ	応用方法を学ぶ	1 現場体験	現場での課題活用事例を知る	3	
			2 構造化した課題の合成	分解した課題をまとめる		
			3 課題発表	第二課題をまとめ、発表する		
15	総合復習	復習の実践	1 第一課題の振り返り	第一課題を自分のものにできる	3	
			2 第二課題の振り返り	第二課題を自分のものにできる		
			3 分野横断の可能性	分野横断技術を体得することへの可能性を知る		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等